

夷隅保健所における市町と連携した 災害時保健活動の取り組み

令和7年度 保健師等ブロック別研修会（関東甲信越ブロック）

千葉県安房保健所 地域保健課 小宮朋子
（前職場：千葉県夷隅保健所 地域保健福祉課 ）



チーバくん

内容

- ◆ 夷隅保健所管内の状況
- ◆ 管内保健師業務連絡研究会（管内研）における
災害時保健活動の取り組み
- ◆ 管内研以外での災害時保健活動の取り組み
- ◆ これらの取り組みを通して感じたこと等

夷隅保健所管内の状況

夷隅保健所管内の状況

- 管轄 : 勝浦市・いすみ市・大多喜町・御宿町
- 管内人口 : 約 65,000 人
- 高齢化率 : 44.9 %

(令和 6 年 4 月 1 日現在)

《災害のリスク等》

- 津波のリスクあり

(地図は房総半島東方沖日本海溝沿い地震モデルによる津波)

- 大雨では、河川の氾濫、冠水、土砂崩れあり

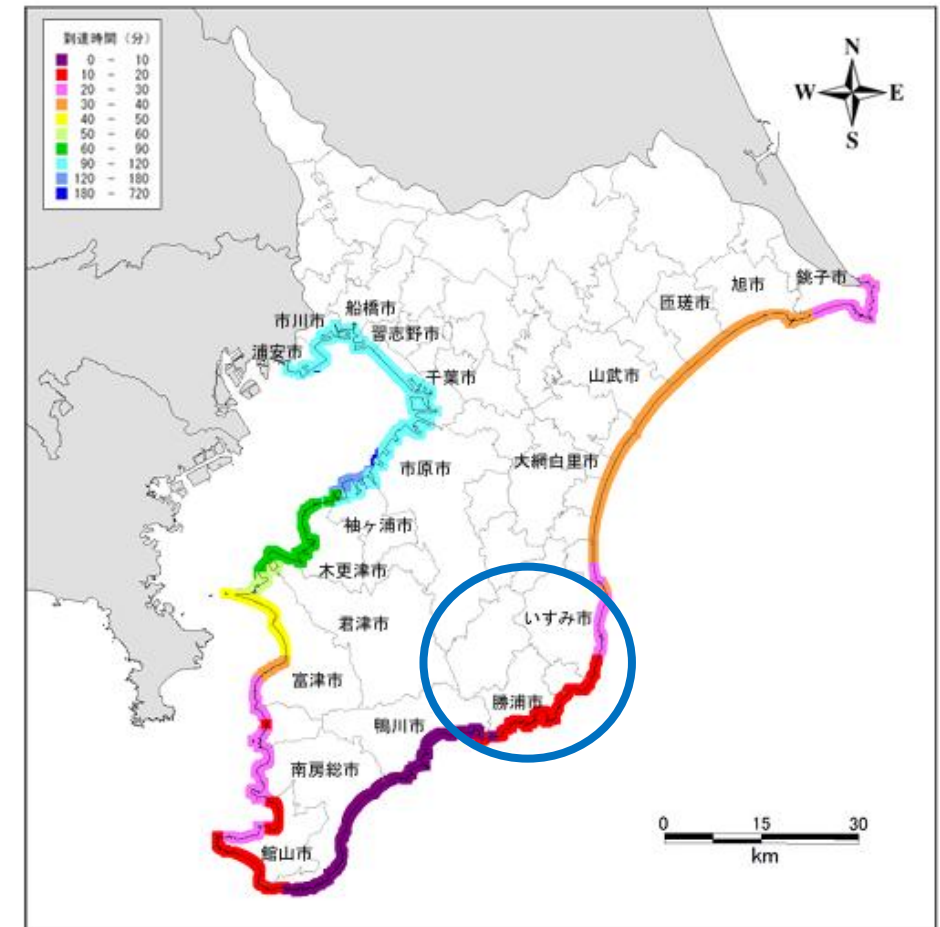


図 8-6 海岸における津波影響開始時間 (±20cm) (堤防あり)

夷隅保健所管内の保健師就業状況

令和7年度

	総数	保健所	市町村			
			衛生行政	福祉行政	介護保険	その他
勝浦市	8人	－	3人	3人	2人	－
いすみ市	12人	－	7人	2人	2人	1人
大多喜町	5人	－	4人	－	1人	－
御宿町	3人	－	2人	－	1人	－
保健所	8人	8人	－	－	－	－

管内保健師業務連絡研究会 における災害時保健活動の 取り組み

管内保健師業務連絡研究会とは

- 県型保健所では、管内保健師業務連絡研究会（以下、管内研）として、管内の行政保健師の資質向上を図るため、研修会等を開催

【夷隅保健所】

- 対象：保健所保健師と市町保健師
- 頻度：年3回程度
- テーマ：保健所と市町の運営委員で検討

（年1回は災害時保健活動をテーマとして取り上げている）

令和5～6年度に管内研を担当

令和4年度までの 管内研における災害時保健活動の取組状況

年 度	概 要
平成28年度	●実践報告「被災地の精神保健福祉活動」 報告者 夷隅健康福祉センター 上席精神保健福祉相談員
平成29年度	実施なし
平成30年度	●講演「千葉県における災害時保健活動について」（＊千葉県災害時保健活動ガイドライン） 講師 千葉県健康福祉部 健康づくり支援課 主幹（保健師）
令和元年度	●講演「災害時における保健活動～平時から準備しておくこと～」 講師 千葉大学大学院災害看護学 災害看護学研究分野教授 宮崎美砂子氏
令和2年度	●実践報告「令和元年度台風15号、19号に係る保健活動」 （１）令和元年度房総半島台風における鴨川市の実践活動から ～見えてきた課題と現状の取り組み～ 講師 鴨川市健康福祉部健康推進課 保健師長・主任保健師 （２）台風15号・19号における母子福祉避難所の現状 講師 南房総市保健福祉部健康支援課 課長補佐（保健師）
令和3～4年度	実施なし

管内研担当となった 令和5年度当初の状況

- 令和2～4年度は新型コロナのためあらゆる事業が中止等
- 令和5年度頃から徐々に事業再開
- 市町の保健師さんからは、保健所にだれがいて、何の担当をしているのかわからないとの声あり
- 保健所・市町で顔の見える関係が途絶えてしまった
- 管内の災害時保健活動の取組状況がわからない



そのような状況の中、令和5年台風13号が到来

令和5年台風13号の状況（9月8日）

- 道路が冠水（ちょうど朝の通勤時間帯）
- 公共交通機関は通行止め
- 保健所では出勤できないスタッフが複数（遠距離通勤が多い）



AM 8 : 3 0
管内全市町
警戒レベル4

AM 9 : 5 0
管内2市町
警戒レベル5

- 市町へ状況確認の電話かけ。市町の誰あてか・・・
- 報告の初動様式はどうだったか・・・

[その後の千葉県防災危機管理部の報告より]

- 管内では土砂崩れ数か所
- 災害救助法の適用になった管内自治体あり

令和5年度 1回目 管内研の取り組み

<実施状況>

◆ 1回目 令和5年10月16日

内容：①講演「災害時における統括保健師に求められる役割」

講師 千葉県立保健医療大学 健康科学部看護学科 准教授 雨宮有子氏

②令和5年台風13号の経験を踏まえて

③管内の災害危険区域のマッピング等

④情報共有・意見交換

対象者：管内市町及び保健所の統括的立場にある保健師および
それを補佐する立場にある職員

令和5年度 1回目 管内研の取り組み

<内容>

①講演「災害時における統括保健師に求められる役割」

- 自治体保健師の標準的キャリアラダーから管理職保健師に求められる能力として、危機等の発生時に迅速な判断を行い組織内外の調整を行うことや、予防的措置として訓練等の企画や実施の指導を行くことなどが挙げられている
- 統括保健師は各部署に配置されている保健師をどのように役割分担するのか、発災時に指揮命令系統の立ち上げを行えるよう体制を確認・検討しておく
- 市町村保健師は第1線で地域住民の健康を守り、保健所保健師は市町村を支援する役割がある

令和5年度 1回目 管内研の取り組み

<内容>

- ②令和5年台風13号の経験を踏まえて（振り返りおよび情報共有）
- いずれの市町でも避難所を開設。避難者は少なかった等の理由から、保健活動としての活動は特になし
 - 避難行動要支援者名簿はいずれの市町でも作成している。しかし、更新や各部署の情報の統合に課題がありそう
 - 避難行動要支援者への安否確認について
 - 「千葉県災害時保健活動ガイドライン」の初動報告様式を用い、台風13号の状況で模擬演習を実施。様式の記載方法での不明点などを確認した。様式を用いるタイミングは要検討。
 - 保健所から市町へ、発災時等に保健ニーズ等を確認のため連絡する際の「保健所・市町災害時保健活動連絡窓口一覧」を作成予定とした。

令和5年度 1回目 管内研の取り組み

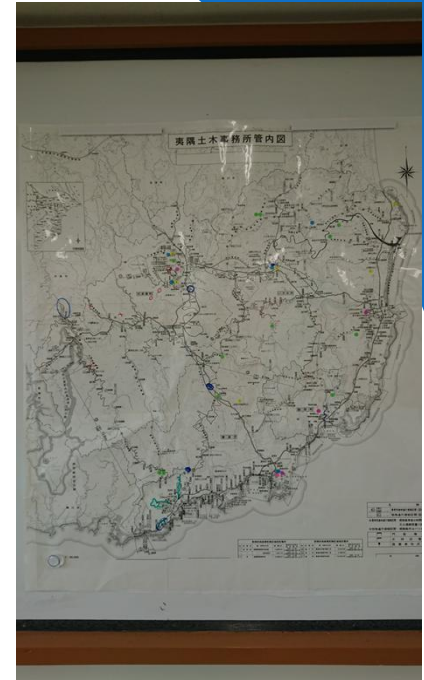
<内容>

③管内の災害危険区域のマッピング

- ・台風13号で被害のあったところのマッピングをおこない、これまでの災害で被害の多い地区や住民の対応状況・避難状況等について共有

④情報共有・意見交換

- ・各市町の災害関連マニュアルや避難所へ持参する物品を共有



令和5年度 2回目 管内研の取り組み

＜実施状況＞ 令和5年12月7日

内容：①講演「災害時に実務保健師、栄養士に求められる役割」

講師 千葉県立保健医療大学 健康科学部看護学科 准教授 雨宮有子氏

②演習・グループワーク（災害を想定）

対象者：管内市町及び保健所の保健師及び**栄養士**

- ・ 「災害時保健活動」は保健活動に携わる職種（保健師に限らない）で
お互いの理解を深める必要がある、との意見が所内であった

* 管内行政栄養士業務連絡研究会と合同開催

令和5年度 2回目 管内研の取組

<内容>

- ①講演「災害時に**実務保健師、栄養士**に求められる役割」
 - ・災害対応に関わる法律やガイドライン、指針のポイントについて
 - ・避難行動要支援者の個別避難計画の作成は、概ね令和7年度を目標とする
 - ・フェーズによって医療救護活動の保健活動の重み付けは異なるが、保健師も医療救護活動を担う
 - ・災害対応にあたっては、**各部署に配置されている保健師等がどのような業務や役割を担うのか確認・検討**しておくことが必要

令和5年度 2回目 管内研の取り組み

<内容>

②演習・グループワーク

- ・災害想定事例をもとに、「避難所へ向かう際の準備」と「避難所での活動」の2場面について、どのような準備や体制等を整える必要があるかグループワークをおこなった

③千葉県災害時保健活動ガイドライン様式集について

- ・1回目管内研での初動報告様式の記載方法等の不明点について、本庁に確認の上、結果を説明
- ・今回の災害想定事例をもとに、様式を記載の上、後日FAX等にて報告してもらった



保健所・市町災害時保健活動連絡窓口一覧

令和●年度 保健所・市町災害時保健活動連絡窓口一覧

R●.●.●.時点

保健所・市町村名	課名	係名	職名	職種	氏名	所属電話番号 (日中連絡先)	夜間連絡先 (留守電対応 になる場合の 電話番号)	FAX	メールアドレス
夷隅保健所									
勝浦市									
勝浦市									
いすみ市									
いすみ市									
いすみ市									
大多喜町									
大多喜町									
大多喜町									
御宿町									
御宿町									
御宿町									

令和6年度 1回目 管内研の取り組み

<実施状況>

◆ 1回目 令和6年11月7日

内容：①講演「令和6年能登半島地震における保健活動を通して」

講師 千葉県立保健医療大学 健康科学部看護学科 准教授 雨宮有子氏

②夷隅保健所における災害対策の取組状況

報告者 夷隅保健所 地域保健福祉課 主査 小宮朋子

③情報共有 ～市町の災害保健活動の取組状況について～

④グループワーク

～市町における災害時保健活動マニュアル作成にあたってのヒントを得よう～

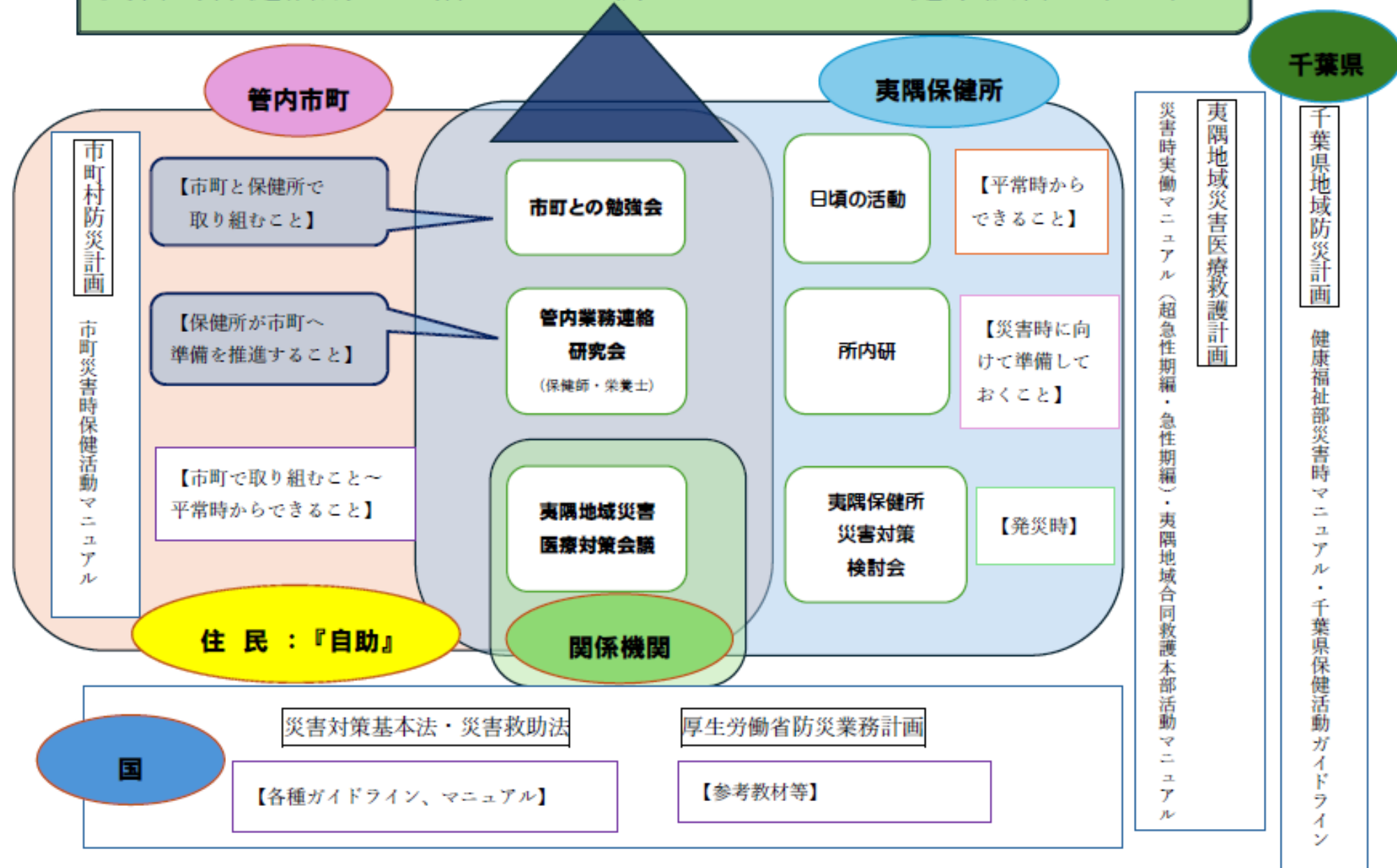
対象者：管内市町及び保健所の保健師

令和6年度 1回目 管内研の取り組み

<内容>

- ① 講演 「令和6年能登半島地震における保健活動を通して」
 - ・ 能登半島地震での被災状況や支援状況について（写真入りの資料を使用）
 - ・ 被災が大きいほど、その被災地からの状況はこない。
 - ・ 避難所の環境整備（トイレ、食事、ベッド、入浴等）について。
- ② 夷隅保健所における災害対策の取組状況
 - ・ 保健所で作成した各種マニュアル等について位置づけと概要を説明。
 - ・ 管内での災害時保健活動に向けてのこれまでの取組状況と成果・課題について

災害時保健活動で目指すこと：防ぎえる死と二次健康被害の最小化



令和6年度 2回目 管内研の取り組み

<実施状況>

◆ 2回目 令和7年2月6日

内容：①講演「災害時保健活動の具体化」

講師 千葉県立保健医療大学 健康科学部看護学科 准教授 雨宮有子氏

②グループワーク

～自自治体の災害時保健活動マニュアルを作成～

対象者：市町の統括的立場にある保健師および中堅期以降の保健師、**市町防災担当**
保健所保健師

令和6年度 2回目 管内研の取り組み

<内容>

①講演「災害時保健活動の具体化」

- ・ 発災時にチームが共通認識し動けるように、平時から災害時保健活動について準備し考えておく必要がある
- ・ マニュアル作成は、地域防災計画を実質化し、組織的に推進していく上で欠かせない

②グループワーク ～自自治体の災害時保健活動マニュアルを作成～

- ・ 市町別グループワークとし、各グループに保健所保健師を配置
- ・ 勝浦市からは保健師の他に消防防災課2名の参加があった
- ・ 市町の取組状況に合わせて、マニュアル作成の取り組んだり、発災時の役割の確認等をおこなった

令和5～6年度 管内研における災害時保健活動の取組状況

年 度	概 要
令和5年度 (1回目)	●講演「災害時における統括保健師に求められる役割」 講師 千葉県立保健医療大学 健康科学部看護学科 准教授 雨宮有子氏
令和5年度 (2回目)	●講演「災害時に実務保健師、栄養士に求められる役割」 講師 千葉県立保健医療大学 健康科学部看護学科 准教授 雨宮有子氏
令和6年度 (1回目)	●講演「令和6年能登半島地震における保健活動を通して」 講師 千葉県立保健医療大学 健康科学部看護学科 准教授 雨宮有子氏 ●「夷隅保健所における災害対策の取組状況」 報告者 夷隅保健所 地域保健福祉課 主査 小宮朋子 ●情報共有 ～市町の災害時保健活動の取組状況について～ ●グループワーク ～市町における災害時保健活動マニュアル作成にあたってのヒントを得よう～
令和6年度 (2回目)	●講演「災害時保健活動の具体化」 講師 千葉県立保健医療大学 健康科学部看護学科 准教授 雨宮有子氏 ●グループワーク ～自自治体の災害時保健活動マニュアルを作成～

管内研を通しての成果

- 顔の見える関係づくり
- 災害時保健活動の活動根拠や各フェーズの活動内容についての理解
- 「災害対応は**チームが重要**であるため自組織内でもしっかり話をしたい」
「**チーム**で動けるようマニュアル等の見直しや知識の統一を図っていきたい」
などの意見があり、実際に発災した場合に、自分たちが災害時保健活動をおこなう上での課題や準備しておくことが必要であることへの気づき
- 千葉県災害時保健活動ガイドラインの周知
- 災害時保健活動（初動）報告について**訓練**を実施。記載方法やその目的について共有
- 「**保健所・市町災害時保健活動連絡窓口一覧**」を作成。年度で更新

管内研を通しての成果

- マッピングにより、管内の被災しやすい地域などを共有
- 災害時活動用物品の準備状況を共有
- 管内自治体の**災害担当部署との連携強化**につながった
- 管内自治体の**災害時保健活動マニュアル**および**アクションカード作成**につながった
- 先行している自治体の取り組みが、他自治体にも刺激となった
- 災害時保健活動について、自治体内で定期的に話し合っていたいとの声もきかれた



管内研以外での 災害時保健活動の取り組み

管内研以外での災害時保健活動の取組状況

- 保健師活動連絡会にて市町の状況を把握、地区概況の作成について提案
- 「自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活用のためのガイド」意見調査の協力を通じた保健所・管内市町の現状把握
- 「千葉県版 災害対応力支援プログラム」の受講
(企画・主催：千葉県立保健医療大学 雨宮有子氏、
内容：BHELP研修、「市町村における災害時保健活動マニュアルの策定及び活用ガイド」の
試行的活用と情報共有 等)

**これらの取り組みを通して
感じたこと等**

工夫したこと、感じたこと等

- ・ **タイミング**を逃さずに。危機感があるとき。（台風13号、能登半島地震）
- ・ 本音で話して一緒に考えていけるように雰囲気づくり
- ・ 自分たちの地域で発災したときのことを**具体的に考えていける**よう、
できることは何だろう・・・

→タイムリーに保健所の体制等を伝えた

◇令和5～6年度に保健所では次のマニュアル等を作成し、

管内市町へ配布

- 「夷隅地域災害医療救護計画」
- 「災害時実働マニュアル超急性期編」
- 「災害時実働マニュアル急性期編」
- 「夷隅地域合同救護本部マニュアル」

工夫したこと、感じたこと等

- 災害対策は多部署、多機関が関わり複雑。見える化、ポンチ絵の作成。
- 勝浦市保健師さんに管内研の企画・運営にあたって多くの協力を得た。
- 管内市町によって災害体制は異なり、取り組みに温度差もある。
- 令和元年房総半島台風の経験から、発災時のイメージを少しでももってもらえるように意識した。

みんな、地域を一緒につくっていく仲間！

心強かったこと

- 災害対策は、この方向性でよいのかなど、考えるのに難しさがある。そのようなとき、管内研の内容や方向性について、**講師から助言**や感想等をもらえることは大変心強く、頑張ろうと思えた。
- 温かく支えてくださる**上司の存在**は大きい。チャレンジしやすい職場環境でした。
- 同僚の保健師に限らず、栄養士さんも、報告様式について本庁へ確認するなど、それぞれができることを積極的におこなってくれた。
- こうした、日々の活動の中で、それぞれのスタッフが自分に何ができるか考え、提案し行動することは、災害時の活動にそのままつながるものだと感じた。



保健所の役割

- 講師に管内の状況を伝え企画・調整・実施
 - 管内市町の実情を伝え、それに合わせて目標を立て企画
 - グループワークでは、取り組みの参考となるよう**市町グループ分けを工夫**
(事前に、ファシリテーター役として協力いただく市に今回の企画のねらいや意図を伝えておく)
- 管内市町の中で先行している取り組みを共有
(災害時保健活動マニュアルの作成状況の共有、地区概況の共有)

管内には素敵な保健師さんたちがたくさん
明るく前向きな気持ちになりました！

保健所の役割

- 管内研の対象に、保健師以外の**防災担当**や**栄養士**の参加を促した
→各自治体内の連携を図るためのきっかけづくり
管内研の開催通知文に、対象者（防災担当、栄養士）を明記
- 国や県の災害時保健活動に関する研修会・会議等を市町へ案内
その参加状況を把握
- 管内市町の災害時保健活動を進める上では、市町の管理的立場の職員（保健師以外）にも災害時保健活動について理解を促す必要がある
→各組織の管理職等が出席する会議等にて、
保健所より適宜情報提供

ご清聴ありがとうございました



チーバくん